



©Yuki Asada

針と糸で明日を紡ぐ

平日の昼下がり、近所のお母さんたちが集まって繰り広げられるおしゃべり。手元には針と糸。お茶をしながら、手と口を同時に動かすのは万国共通、女性の得意技だ。何かチクチク縫いながら、たわいもない会話が続いていく。

少し前までは、そんな光景があちこちで見られたシリア。しかし2011年から始まった内戦が、彼女たちの生活を一変させた。家も夫も失い、戦禍を逃れ、子どもを連れて転々としている女性も少なくない。

社会的な制約があり、仕事を得ることも難しい。日々の生活もままならない中、何とか女性たちが自らの力で未来を切り開けるよう手助けしたい。そん

な思いで、シリアで国際協力に携わってきた日本人が立ち上げたのが「イブラ・ワ・ハイト」。アラビア語で“針と糸”の意味。この地で伝統的に受け継がれてきた刺しゅう技術を仕事に生かしているという活動だ。

「色鮮やかな糸で刺しゅうをすることが、女性たちの、そしてその姿を見た子どもたちの癒やしとなっています」と話すのは、発起人の山崎やよいさんと志内優子さん。女性たちが収入を得る手段になればと、完成した製品は日本の展示会などで販売している。

雄大なユーフラテス川流域で育まれてきた刺しゅう技術。そこには、お母さんたちの大らかな愛があふれている。



古代オリエント博物館(東京都豊島区)など各地で展示販売を実施

★シリアの刺しゅう製品を1人にプレゼント!→詳細は38ページへ

★「イブラ・ワ・ハイト」の製品の販売情報はfacebook(www.facebook.com/lburawahaito/)まで。

